

公立大学法人北九州市立大学の平成24年度に係る業務の実績に関する全体評価

【全体評価】

○理事長、学長のリーダーシップとそれを支える組織が整備されており、実行力のある体制となっている。大学執行部の改革意欲も高く、全般にわたって計画は順調に実施されていると評価できる。

○教育分野では、「地域共生教育センター」「まなびとESDステーション」の運営など、多様な取組みは大いに評価できる。これら地域をフィールドとした体験的学習の機会の提供、他大学との連携など、積極的で個性的な活動は、より豊かな人材を育てる重要な役割を果たすものとする。一方で、大学院教育においては、教育内容や受験状況などの改善はあるものの定員の充足などの課題が残る。中期計画期間に当初の成果が得られるように更なる取組みに期待する。

○研究分野の個別年度計画も着実に遂行されている。また、市立大学という大学の役割から、各種の調査・研究、論文発表や研究開発などの成果が発表会やシンポジウムの開催に止まらず、市の施策への提言、地域の民間企業との共同研究開発など、市民の生活の質の向上に直結することを期待する。今後とも、優れた研究者・教育者の育成と招致を充実させ、研究と教育の水準向上に努められたい。

○社会貢献分野について、海外派遣留学計画など国際化は順調に進捗している。長期戦略をもってさらなる推進を期待する。また、さまざまな実践的人材育成事業の実施など活発な地域貢献活動は高い評価に値する。今後とも、地域に根ざした大学として、さまざまな活動を通じて、より多くの有望な学生が北九州に就職するような仕掛けが推進されることを期待する。

○管理運営分野においても、運営の効率化や財務内容の改善、施設設備の改修など計画が順調に進んでいる。運営面では適時、組織の見直し・改善が行われ、実行力のある体制となっているほか、財務面においては戦略的な外部資金の導入など優れた成果を上げている。一方で、実施が遅れている広報活動である大学認知度向上プロジェクトについて早急な対応が求められる。さらに、国の高等教育政策が急速に変化する中、教員の教育・研究に対する意識改革や財務運営の認識、理解も含め、社会環境の大きな変化に迅速にかつ柔軟に対応できる体制の確立が期待される。

公立大学法人北九州市立大学の平成24年度に係る業務の実績に関する分野別評価

【分野別評価】

I 教育

○教育システムの着実な改善など、全体として順調に年度計画が推進されている。教員の改革意識の高揚や優秀で熱意のある教員の受入れは、教育の充実において重要であり、今後とも、さらなる充実が望まれる。

5段階評価

A

○北方キャンパスとひびきのキャンパスの学生の交流が実施されたことのみならず、授業においても交流が開始されたことは、より幅広い視野を学生に与えるきっかけとしても有益な取組みとして評価できる。

○北九州市立大学の特色である英語力の養成は、副専攻プログラムが、文部科学省補助事業「グローバル人材育成推進事業」に採択されるなど、成果が上がりつつある。引き続き、グローバル人材育成の強化を図りたい。

○環境人材を養成する「北九州学」は北九州市の特性を生かしたユニークな取組みであり、北九州市立大学としてのオリジナリティが認められる。環境スペシャリストや環境を守る意識の高い人材の育成、輩出し、これが、市民の生活の質の向上、入学志願者増加、就職率向上に結びつくことを大いに期待する。

○地域創生学群は、北九州市立大学の注目すべき地域人材育成の取組みである。その成果の一つとして、その一期生の就職決定率が100%であったことは、評価に値する。地域に根ざす大学として、今後さらなる取組みを大いに期待する。

○大学院教育においては、新たな大学との連携を図るなどの取組みは評価できる一方、定員充足の問題を含め、「あり方」について検討し、解決に努められたい。

II 研究

○計画に従って、北九州市立大学の特長を生かした研究力の向上を目指し、研究拠点の形成を着実に進めている。

5段階評価

A

○市立大学であるという視点から、研究成果については、どのように地域政策に生かすかを明確にするとともに、研究成果を地域企業との協業などによる具体的なアウトプットを創出するなど、さらなる活動を期待する。

○環境省への提案事業が採択されるなど、北九州の都市問題や環境問題などの研究を行っていることは評価できる。今後とも、地域のシンクタンク、あるいは地域の知の拠点としての役割を果たすことに期待する。

○大学にとって、研究水準の向上が重要であることに鑑み、教員の研究に適した環境の整備や専門的・先端的な研究者の招致などの取組みを期待する。

公立大学法人北九州市立大学の平成24年度に係る業務の実績に関する分野別評価

【分野別評価】

Ⅲ 社会貢献 ○他の研究機関との連携や地域社会への貢献などの地域連携活動は、成果を上げており、地域社会への貢献として高く評価できる。

5段階評価

A

○文部科学省の補助事業に採択された「まちなかESDセンターを核とした実践的人材育成事業」は、北九州市立大学がリーダーシップをとって、地域に根ざす活動を実施しており、今後の成果が期待できる。

○地域共生教育センター、地域ものづくり交流センターにおける活動では、教育効果と研究成果をもって地域に貢献する仕組みが活発に機能しており、高く評価できる。

○地元の小・中学校などに対し、北九州市立大学の授業との連携、学生ボランティアの派遣などを通して、授業・課外活動が展開されている。今後とも、小・中学生などを対象とした環境に関する体験型講座の開設など、次世代の人材育成への貢献とともに、高等学校との連携のための工夫などを通して、地域の中核となる大学としての役割を担うことが望まれる。

○大学の国際化に向けて、海外の大学と戦略的に交流協定などを結び、教育や研究に生かしている点は高く評価できる。学部留学生の派遣、受入れは順調であるが、その後の教育の充実、並びに大学院生の留学についても取り組まれない。

Ⅳ 管理運営

5段階評価

A

○大学運営の効率化、財務内容の改善、各種情報のデータベース化などが着実に実施されており、管理面での効率化、サービス性の向上、管理精度の向上が計画通り進められている。

○戦略的に多角的な外部資金を獲得している。また、その申請を支援する体制なども整備されていることが評価できる。

○研究と教育の両面にわたる向上・充実を図ることが、効率的な管理運営に結びつき、より水準の高い、大学運営が実現できる。今後も継続的に効率的かつ効果的な管理体制への進展を期待する。

○大学認知度向上のための広報活動の実施が遅れている。大学の価値や活動を対外的に認知してもらうことは大学の将来のあり方に関わることであるので、ブランド戦略の検討に注力していただきたい。

○中長期を見据えた人材配置、教育は評価できる。今後、小規模な大学で職員のキャリアパス(他機関との人材交流を含めた人材育成計画)をいかに形成するか大きな方針について検討されたい。